

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902062		
法人名	株式会社グレース		
事業所名	グループホームあい		
所在地	旭川市川端町4条8丁目2-18		
自己評価作成日	令和5年6月16日	評価結果市町村受理日	令和5年7月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0192902062-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 5 年 7 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お互いの存在を喜びとし」から始まるあいの理念と、運営の根底に流れるキリスト教の精神に由来した尊厳を大切に介護の精神で創立20年を超えるグループホームあいは運営されています。「年を取って失うものが増えるのは悲しい事では無い。神様が人間をそう作ったのだ」といつも語る代表の言葉に職員も励まされ力を受けております。そして、コロナ禍ではより難しかった「籠らない介護」を体現すべく、日々散歩や外気浴、花見に白鳥見学などをグループ対応で行っています。そして室内行事では合同昼食会、歌声喫茶、作品作りなどに重点を置いております。また、新たにホーム犬を継いだ「ラッキー🐶」も皆のアイドルとして愛想をふりまいて入居者と職員に癒しを与えてくれます。コロナのクラスターも経験し、よりランクアップした当事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、2ユニット18名の利用者が職員の支援の下、生活を共にしています。最寄りのバス停から至近距離にある住宅街の一角に位置し、住民とは玄関前に飼っているセラピー犬を可愛がってくれるなど馴染みの関係にあります。長期勤務者が多く、開設以来、理念や目標に沿った寄り添いの支援が新人職員と共に行われています。玄関先のベンチで数名の利用者と職員がチランを眺め食べたい物を話し合うなど、ほのぼのとした場面が垣間見られました。行政の補助金制度を活用し、ガラス戸を挟む面会室を設け、コロナ禍においても利用者や家族の繋がりが途切れることなく行われています。また、1年中歩行補助具を活用しながら散歩やグループでの外出支援、屋内では1日2回様々なレク活動を行い、心身の機能維持に大いに効果が出ています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念と、理念を具現化した介護の原則を毎日、朝礼で唱和、さらに年に最低1回は代表からの介護の原則について訓示が全体ミーティングで行われる。最近5月の会議で改めての介護の原則について代表より話しを聞いた。	事業所理念と3項目からなる原則を目標とし、要所での掲示や毎朝の唱和で意識統一を図っています。さらに研修時に代表者による理念の本質を学び、レポート提出で職員は自らのケアを振り返っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外気浴の都度地域の方とのあいさつに始まるコミュニケーションをとり、町内会行事もコロナ以前は参加できるものは参加していました。また運営推進会議には所属町内会の役員も参加しています。	地域とは良好な関係を築いており、回覧板で情報が得られ、資源物回収の協力や介護相談には快く対応しています。コロナ禍においても、運営推進会議には数名の参加を得ています。日常的に挨拶やセラピー犬を介して会話があるなど、途切れない関係が続いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて情報を発信したいと、包括支援センターとも話し合っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、町内会、入居者家族、市役所など関係者にホームの状況や取り組み、各種情報を発信しており、そこでの意見も運営に活かせるようにしている。	会議は、複数の地域関係者と家族、行政職員の参加の下、書面や対面で開催しています。メンバーに現況報告や運営への取り組みに対して資料や事業所便りなどを添えて説明をし、感想や質問等が寄せられ、相互の理解に繋がっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護業務上の疑問などはいつも指導監査課などを通じ相談しており、運営推進会議にも長寿社会課の職員が参加している。	管理者は、運営に関しての疑問点や相談事が生じたときには、窓口担当者と連絡を取り合い課題解決に努めています。運営指導時や運営推進会議でも、各行政職員から助言や情報等が得られています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	株式会社グレース代表を含めた(身体拘束適正化委員会)を設置し、入居者の状況や状態を毎月確認し、(身体拘束しないケア)の実践に取り組んでいる。そして、現在は、安全ベルトやミトン、四方を囲むベッド柵等をしている入居者はいない。さらに器具を使わない「スピーチロック」等についても拘束として学んでいる。	職員は、身体拘束や虐待をしないケアを基本として、利用者に寄り添っています。指針に沿って適正化委員会や研修会を適宜開催して内容の理解が得られるよう努めており、思慮が足りない言動には職員間でも注意を促しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年間の研修スケジュールに則り、高齢者虐待や高齢者の権利擁護について、研修しているが、外部研修にも参加できる時は職員にも参加してもらい、得た物をスタッフミーティングに下ろしてもらっている。7月の研修は高齢者の権利で8月は高齢者虐待。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修スケジュールに則り、成年後見制度や自立支援制度についても、研修しているが、外部研修に今年はコロナの状況により参加したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には必ず代表が立会い、十分な説明と疑問点を尋ね家族の理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日の帰りのミーティング時に入居者の苦情要望が無いか職員から聞き取りをしており、玄関にも苦情要望の意見箱を設置している。また、必要があればリーダー会議等で議題にしている。	毎月の便りとして、個別に写真とコメントを添えて家族に届け、様子が分かると好評を得ています。利用者や家族から運営に関した意見が出された場合は、職員間で話し合い、内容によっては法人や事業所の役職者が検討する態勢にあります。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティングでは、実務上の疑問やその他の質問を言う機会があり、毎日のミーティングでも気軽に言う機会もある。	代表者は常に来訪し、事業所の運営状況を把握しています。職員は業務上での気付きを上司に伝え改善に繋げています。補助金制度を活用し、面会など多目的室の増設やリフト浴の導入など、職員が働きやすい環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、毎月のリーダー会議上でも、現在の運営状況にも言及し、職員の待遇改善にも努める向きの発言を行っている。実際グループの建物や土地の減価償却は年々済んでおり、今年は処遇改善だけではなく、賃金アップもあったようだ。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に職員を派遣してきたが、コロナ禍もあり、参加の機会は無いが、以前は研修に参加してもらい、全体ミーティングで研修の内容を皆に発表してもらっていた。現在は職員が調べた物を発表してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	近所のGHの運営推進会議に管理者が参加、また、地域包括支援センターの勉強会や交流会に参加できる時は参加している。また、グループホームつながりとは、様々な相談や協力体制をつくるよう模索中。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントやサービス利用情報、家族やご本人からの聞き取り等を活かしながら、馴染みの物や関係も鑑みサービス提供を心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントや以前からのサービス利用者情報、家族からの意見と本人の気持ち等を傾聴し馴染みの関係を大切にしながらの新しい安心できる関係づくりの構築を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問マッサージや訪問理容、訪問診療など介護保険外にも利用できるサービスを含めながら利用者や家族に最適な支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	代表からの訓示で「介護しているのではなく、させて貰っている」のだという気持ちで！と話されており、体の機能や認知機能など年齢と共に失っていくのは神様がそう作った事で決して悲しい事ではなくお互いを助け合う為なのだと理念を共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	代表からの訓示で「介護しているのではなく、させて貰っている」のだという気持ちで！と話されており、体の機能や認知機能など年齢と共に失っていくのは神様がそう作った事で決して悲しい事ではなくお互いを助け合う為なのだと理念を共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院や美容院など家族の協力を得ながら利用されている方も居た。また、家族・親戚・友人知人の訪問も歓迎し、居室や面会室での楽しい面会の時間を持って頂いている。	入居時に利用者にとって馴染みの人や場所を聞き取り、その関係性を大事にした支援が行われています。コロナ禍においても感染症予防対策をして家族との面会を支援し、また、ドライブで恒例の白鳥見学を実施しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファで入居者同士が談笑したり、手作業を一緒にして頂いたり(手芸・編み物・針仕事・おやつ作りなど)している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームから家族との同居に逆に舵を切った家族があり、その家族や関係者から何らかの相談があった場合には対応している。また、退所されたご家族の理容院に訪問理容にきていただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の生活履歴や背景、家族や利用サービスからの情報と本人からの聞き取りにより、本人の希望・以降の把握に努めアセスメントしている。特に趣味や食事は重要視している。あと毎日のミーティングで入所者からの苦情・要望も把握に努めている。	利用者の意向は会話の中から把握していますが、それが困難であれば、積み重ねてきた情報の記録や家族の意見もキープポイントになっています。「レクに参加したくない」「生かし寿司は苦手」「昼寝をしたい」「最期までここに居たい」などの要望に応えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活履歴や背景、家族や利用サービスからの情報と本人からの聞き取りにより、本人の希望・意向の把握に努めアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の生活履歴や背景、家族や利用サービスからの情報と本人からの聞き取りにより、本人の希望・以降の把握に努めアセスメントしている。さらにADLの把握と経過観察によりリハビリ等による機能維持にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の体調変化や状態変化時、または介護保険の更新時期前に家族を含めた担当者会議を開き、意見を集約すると共に、日々の介護でのモニタリングと職員からの意見とアイデアも集めケアプランに活かしている。毎月のミーティングでは入居者情報を職員に聞き取り提出している。	介護計画は、更新時や体調変化時に、新たな視点で利用者や家族が望む支援目標を設定しています。適宜、モニタリングやアセスメントを行い、医療従事者の意見や職員の気付き等を踏まえ、職員間で協議しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別アセスメントシートに記入し、短期目標のチェックもアセスメントに用いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の担当医と相談しながら、足腰に痛みのある入居者には「訪問マッサージ」を受けてもらうなどコロナ以前はサービスの向上につなげていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内にある理容院と協力し、定期的に訪問理容のサービスを受けて貰っている。現在は、元入居者家族の理容院に訪問理容をしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。なお当事業所18名中17名が訪問診療を受けている。	要望の医療機関を受け入れていますが、殆どの利用者は月2回の協力医による訪問診療を希望しています。馴染みの外来受診は基本的に家族対応とし、訪問医の紹介による専門科外来は職員が同行し、いずれも関係者と情報を共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療医が契約した訪問看護事業所から、定期的に入居者の訪問看護サービスを受けており、入居者の健康管理の一翼を担っている。医療連携という形である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	対象者の日頃の様子やアセスメント、薬関係、認知の状態やADLなど情報提供をし、病院側からは看護計画などの情報提供を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時と状態悪化時には「重度化対応の指針」を説明し、希望者には「看取り」に関する説明をしている。さらに急変時の対応について予め家族の要望を文書で取って確認している。	重度化や看取りに関する対応は、入居時に指針で説明し、理解を得ています。看取りケアの希望が多く、定期的に書面で意向を確認しています。関係者の態勢が整った時点で、利用者が望む最期であるよう尊厳ある支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを常備しており、また、ミーティング時にも災害発生時や救急対応時の講習を行っている。更に今年度から「普通救命講習」の職員受講も考えている。出来れば団体講習で。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に地域の方も参加してくれ、災害時にも避難場所として自宅を使っても良いという話もいただいている。今回行った避難訓練では2階が工事中なため垂直避難訓練はできなかったが、次回は行う予定。BCPも策定中。	年2回、日中・夜間帯の火災避難訓練を実施し、その内1回は水害を想定して2階に移動しています。訓練時は職員全員の参加で行われ、レポート提出で表出した課題点は、次の訓練に生かしています。	職員全員で防災や減災の意識を高めていますが、地震などあらゆる自然災害や入浴時などの対応も視野に入れた訓練に期待します。併せて各災害に対する避難経路の明確化と家族への周知など、災害対策強化に期待します。

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あいの理念を具体化した介護の三原則を朝礼時に日替わりで唱和すると共に、代表からの社内講習でも毎回言葉遣いや介護の原則についての訓示があり職員で共有している。	理念を具体化した3原則(目標)は正しい接遇のあり方を示しており、職員は、実践に努めています。介護日誌にも目標を記載し、また、代表者による訓示もあり、意識化を図っています。入浴や排泄時は、十分に配慮して支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の着替えの好みを訊いたり、したい事、食べたい物など日常の会話から苦情要望として汲み取る仕組みがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	必要な支援として、体操やリハビリは極力して頂くが、レクに参加したくない人や団体行動が苦手な方などその人や気分に応じた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな化粧品を使って頂いたり、好みの服を着て頂くなど支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	夏場の焼き鳥パーティー、合同昼食会、鍋パーティー、各種行事食など普段と違う食事などを楽しんで頂けるよう対応している。特に行事食では入居者のADLを活かしたおやつ作りや、料理作りもして頂いている。	献立は、毎週利用者の要望や苦手な物は代替食を用意して作成しています。月2回のユニット合同昼食会では、生ちらし寿司や時にはウッドデッキで焼き鳥、ジンギスカン等を楽しんでいます。行事食や好物のラーメン、暑い日は流しソーメンなどで目先を変えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉・魚などのたんぱく質や野菜類のビタミンと食物繊維など毎日の栄養摂取と1日1300mlを目安とした水分摂取に取り組んでおり、刻み食やミキサー食にも対応しており、食事量・水分量などの記録も個人個人取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアや状態に応じた訪問歯科診療など支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとの声掛け誘導やテーブル式オムツの方でも「トイレー！」と希望される時は職員2人掛かりでもトイレでの排泄支援を極力行っている。本人の状態変化に応じ紙パンツから綿下着などへの移行も行っている。	声かけや誘導を行いトイレで自力排泄やベッド上での支援もありますが、尊厳に配慮して行っています。利用者がトイレに行きたいとの意向を尊重しており、また、職員の努力により布下着の着用が可能になった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類のビタミンと食物繊維など毎日の栄養摂取と1日1300mlを目安とした水分摂取にも取り組んでおり、個別リハビリや体操など便秘予防にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入居者は最低週2回の入浴だが、体調や気分により日をずらしたり、季節の入浴剤を使い気分を変えたりリラックスできる時間づくりを心掛けている。また、排泄の失敗などで汚れた場合も勿論入浴頂いている。	入浴は午後から週2回を目途に、1人入浴をドア越しに見守り、状況に応じてリフト浴や足湯にシャワー浴、清拭で保清に努めています。利用者は、入浴剤やゆず湯でゆったりと寛ぎ、職員と会話を交わしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムにより昼寝したい方には昼寝、昼寝の習慣がない方には、ホールのソファで他の入居者の方々と歓談などそれぞれの時間を過ごして頂き落ち着いたナイトタイムを迎えられるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬内容に変化があった場合には必ず連絡事項として回覧周知している。また、新しく薬が増え症状の変化が出る事も予想される場合は経過観察もするよう回覧周知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のADLに応じ、食後の茶碗拭き、タオルたたみ、テーブル拭きなどの家事手伝い、雑巾縫いや、編み物などの手作業、行事がある時や貰った山菜がある時など、下ごしらえやおやつ作りなどが出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は毎日の散歩や外気浴、ドライブ。冬季は外気浴に個別やグループ対応での外出にも出ているが、コロナ禍で以前のような「日曜礼拝」や「団体で買い物」などは自粛している。	コロナ禍においても感染症対策を講じて、歩行補助具も利用しながら近所の花々を眺めながらの散歩や近くの桜並木を散策しています。ドライブで恒例の白鳥見学や紅葉狩りを楽しみ、暑いときにはソフトクリームを食べに出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の「おやつ」の買い物や必要時の衣料品の買い物など希望やADLに応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への電話や年賀状など季節的な物や必要、希望時にやり支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には植物の緑や季節ごとのディスプレイをするようにし居心地よく過ごせる工夫をしている。	生活空間である共用部分は、清潔や温湿度、換気、臭気等に配慮しています。午前と午後の2回、季節飾りの制作や習字レク等やおやつを食べながら職員の弾くオルガンに合わせて唱歌を歌ったり、輪投げで身体を動かしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間である食堂兼ホールには共同のテーブルとソファを設置しており、普段だけではなく来客時にも使用して頂いている。昼食後によく女性3から4人がお喋りを楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から馴染みの空間となるように、普段使いの家具や日用品をそのまま使って貰うようにしている。仏壇などを持ち込む方々もいる。	クローゼットが設置された居室には、生活用品や仏壇、裁縫道具などが持ち込まれています。習字や季節飾りなどのレク作品を部屋に飾り、自分の居場所を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要ならば手すりを増設したり、トイレやエレベーターなどの案内も分かり易くしている。		